

Pick Up News 今月号も大学院特集をお届けします。大学院での学びは、学部までの学びとは少し違います。大学で身につけた知識や技術をさらに深めながら、自分自身で課題を見つけ、その答えを探していく学びへと進んでいきます。興味や関心のあるテーマをとことん掘り下げ、研究や設計活動に取り組む中で、専門的な知識だけでなく、自ら考え、行動する力も身につけていきます。それは、将来、建築技術者や設計者、研究者として社会で活躍するための大きな力となります。本学科では、毎年多くの学生が大学院へ進学しています。大学院への進学は、卒業後の進路を考えるうえでの一つの選択肢です。まだ具体的な進路が決まっていない人も、先輩の話を聞いたり、研究室を訪ねたりしながら、「大学院でさらに学ぶ」という道について考えてみてください。さて、後期が始まりました。夏休みを終え、それぞれにリフレッシュして新たな気持ちで大学に戻ってきたことと思います。後期は、卒業や進級に向けた大切な時期です。前期の学びを振り返りながら、後期の授業や活動にも積極的に取り組み、次のステップへつなげていきましょう。

大学院特集：「学び」を、もっと自由に。建築の未来をひらく大学院進学～大学院生の活動（学会発表）～

先月号に続き、今月号テーマは「大学院特集」です。今年度は留学生3名を含む24名もの学生が建築学専攻に進学し、定員を大きく上回る結果となりました。大学院は年々活気を増し、ここ数年は進学希望者がじわじわと増え続けています。その背景には何があるのでしょうか。「もっと深く学びたい」「社会に出る前に自分の専門性を磨きたい」。先月号では、そんな思いから進学を決めた学生たちの「リアルな声」を紹介しました。今号では、現在在籍している大学院生たちの活動を取り上げ、進学という選択が持つ意味をさらに掘り下げていきます。

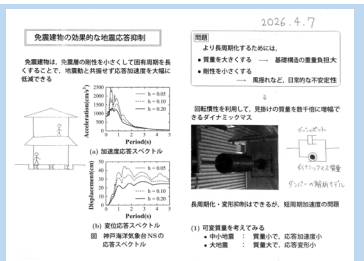
2026年9月8日（火）から11日（金）にかけて、安田女子大学（広島市）を会場に開催された「日本建築学会大会」において、本学大学院生が多数参加し、日頃の研究成果を発表しました。日本建築学会大会は、建築分野における全国最大規模の学術集会であり、研究者・技術者・学生が一堂に会し、最先端の研究や技術について活発な議論が交わされます。本学の大学院生たちは、各分野において日頃の研究活動の成果を発表し、他大学や研究機関の研究者たちと意見を交わしました。発表は真剣な雰囲気の中にも熱意が感じられ、聴講者から多くの質問やコメントが寄せられるなど、充実した内容となりました（紙面の都合上教員の発表は除く）。

1. 災害公営住宅における居住者管理体制の再編に関する研究 仙台市あすと長町第二市営住宅をフィールドとして（新井研）
 2. 北海道小樽市に現存する倉庫・蔵の実態と明治期の大火の影響 ～大火からの復興を通してみた近代の町並みに関する研究 その13～（石井研）
 3. 平面図分析に基づく小規模多機能型居宅介護の宿泊室の構成と地域交流室設置の実態（石井研）
 4. 白神山地西目屋村におけるマタギの暮らしにみる山村集落の構成要素とその実態（石井研）
 5. まる村3rd 宮城県泉沼市唐桑町における農機具小屋の設計 および施工（石井研）
 6. 防火設備の制御フローにおける作動状況の実態 定期報告書に基づく調査（鍵屋研）
 7. 旧中尊寺経蔵別当領・骨寺村の駒形根神社と慈恵大師拜殿（中村研）
 8. 多聞院伊澤家住宅の家相図にみる里修験の民家の屋敷構え（中村研）
 9. FRCCの一軸引張性状におよぼす単層カーボンナノチューブの影響に関する研究（菊田研）
 10. 伝統的木造住宅の常時微動測定に基づいた振動特性の検証 その2 測定結果および振動特性の検証（船木研）
 11. 慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性に関する基礎的検討 その1 単体性能試験（船木研）
 12. 慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性に関する基礎的検討 その2 抵抗力特性の統一的理解（船木研）
 13. 竹集成材による既存建築物の補強に関する研究 一その2 等級付き木材の力学特性及び補強効果一（薛研）
- 

Pick Up Lab. 堀研究室では、地震に対して「強い」建物の研究をしています。安全性だけでなく、揺れない安心感や地震後の機能維持なども含めた強さを目指しています。夏休みも終わり、4年生は本格的に卒論を進めているところです。主に免震構造を対象としていますが、中地震では地震を受け流して揺れず、大地震では変形を抑えて損傷を防ぐような、高機能な制御システムに繋がる検討です。5号館建て替えのため7号館に研究室が移転して2年半となり、ここで卒論をまとめる学生も3代目となりました。今年10月に研究室配属となる3年生が卒論をまとめる頃には、新5号館が完成予定です。



高層免震グループのゼミ



卒業論文テーマの説明資料



M2年 K. O.さん
仙台西高校 出身

Pick Up Student

大学院に進学して、1年半が過ぎようとしています。学部時代に研究室の活動に参加する中で、研究の面白さに惹かれ、大学院への進学を決めました。現在は、伝統的木造住宅（古民家）の振動特性を、常時微動測定によって検証する研究を行っています。これまでに研究成果を論文にまとめ、日本建築学会大会などで発表しました。また、今年度はナパールで開催されたアジア地震工学会議において、英語での研究発表も経験しました。海外の研究者と交流する中で、新たな知識や考え方に触れることができ、自分自身の視野を広げる貴重な経験となりました。大学院での研究活動を通して培った知識や経験を生かし、修了後は構造設計事務所に就職する予定です。将来は、研究で身につけた力を実務にも生かし、建築物の安全・安心を支える構造設計者を目指したいと考えています（写真は発表の様子）。



2年 U. N.さん
白石工業高校 出身

Pick Up Student

大学に入学してから1年半が経ち、授業や課題など慣れないことも多くありましたが、少しずつ大学生生活にも慣れてきました。特に設計課題は難しいことも多いですが、先生方や講師の方々からアドバイスをいただきながら、自分では思いつかなかった考え方や視点を学ぶことができました。さまざまな意見を取り入れながら、自分の考えをより深め、作品を完成させていくことに楽しさや達成感を感じています。

これから就職活動も始まるため、自分が将来どのような建築に関わりたのかを考えながら、大学での学びを将来につなげていきたいです。